

出席 6人

- ・防災について、前回にでた課題からこれからコミセンでどう取り組んでいけばよいか。  
防災について勉強したいと高山さんが初参加され基本から話げできた。

- ・公園にある災害時トイレについてよくわからない。

阪神震災で慌てて各公園に作ったが、中越地震でそれを実際に使ってみて後始末などが大変なことがわかり、いくつか下水管に直結するものに変えた。

公園のトイレ 3 つはコンクリートにそのまま汚物がたまり、落ち着いたところにバキュームカーでくみ取る。それは市には1台しかない。

雨水が入り込んで使えなくなっているところもある。

工具がコミセンにもあるのでみんなでやってみたほうが良い。

- ・3日間は自宅にいることになっている。

その備えはできているか。地域に啓発すべき。周りの人を気遣う余裕が生まれる。

「私がやっている防災対策」を話し合ったらよい。

張り出して地域の方も参加してもらえば。

災害後3日くらいして、建物診断されて、避難所が立ち上がり動き出す。

その後コミセンは建物診断されて、支えあいステーションとなる。

それが済むまでは中に入れない。

支えあいステーションについて

支えあいステーションと思いやりルームがごっちゃになっている。

支えあいステーションは 情報伝達・物資の配給・思いやりルーム開設などがある。

コミセンは避難所ではないので災害備蓄品はおいていない。

支えあいステーションが開設されたらリヤカーで取りに行く。

防災用品がないと生活できないではなく、日ごろから乾物など使う工夫をしているとよい。あれがないとできないとかじゃなく、どんなことも応用できる生活力を付ける。

他人に頼るのでなく、自分で生き残るための備えを知る。(自助が共助につながる)

サービスをする場所ではない。みんなで助け合うこと。

思いやりルームが開設された場合、寝泊りする人が来ることになり、常駐する人がいるのか。コミセンでは対応が無理ではないか。

イベントなど楽しい企画にちょっと防災の情報を落とし込む。

ニュースなどにも防災情報を入れる。

防災食も工夫されてきているので紹介したらよい。

手作りの乾燥野菜など 買わなくてもできる知恵がある。みんなでやってみたらよい。

食べてみたらやる気になる。試食コーナーをまつりでやるとか。

何かあったら手伝うよという人の輪を広げる。日頃の活動 つながりづくり。

緊急な場に居合わせたとき、知恵を出し合い助け合えるか。

他の人を思いやれる気持ち。会話が大事。きちんと伝えあえる会話力アップする。